

平成8年

4月9日[火]~5月26日[日]

【開館時間】午前9時~午後5時(入館は4時30分まで)

【休館日】4月14日(日)・15日(月)・22日(月)・30日(火)

5月7日(火)~9日(木)・12日(日)・13日(月)・20日(月)

【入館料】一般200(160)円/小中学生100(80)円

※()内は20名以上の団体料金

渋谷区立松濤美術館

渋谷区松濤2-14-14 Tel.03(3465)9421

「渋谷駅」下車徒歩15分/「神泉駅」下車徒歩5分

協力:博物館 さがの人形の家(京都)

【特別展】

江戸の人形

— 祈りと遊びの世界 —



人形は「かたしろ」「ひとがた」などと呼ばれ、人の身代りとして災厄やけがれを取り除くといった呪や信仰の具として使われてきました。「かたしろ」から天児、這子と呼ぶ人形が作られ、子供の成長の無事を祈る風習も生まれました。更には、雛人形が生まれ、年中行事としての雛祭りが今に受け継がれるにいたっています。

江戸時代に入り、人形は多面的に展開し、雛人形も寛永雛、享保雛などそれぞれの時代の特徴を持つ雛人形が生まれ、また、子供の遊具とは別に、嵯峨人形、御所人形、衣裳人形など大人の鑑賞の世界で愛でられる人形が誕生し、地方ではそれぞれの地方の特色を濃厚に持つ郷土人形が作られました。また、精巧な動きをするからくり人形は、江戸時代の科学技術の一端を示すものでもあります。

本展では、江戸時代の這子や雛人形、京都で制作された御所人形、嵯峨人形から、地方の特色を豊かにもつ堤人形などの郷土人形、精緻な細工による動きを誇るからくり人形まで約300点を陳列し、信仰とも結び付いた江戸の人形の雅やかな美を御覧いただきたく思います。



天児（京都府立総合資料館蔵）



次郎左衛門雛（雲華院蔵）



御所人形 千代丸様（宝鏡寺蔵）



からくり人形 木挽（個人蔵）



堤人形 福神川越（仙台市博物館蔵）



賀茂人形 笑み（佐野美術館蔵）

【講演会】4月28日〔日〕午後2時～

「江戸の人形」千葉古人形研究所 千葉惣次氏

5月3日〔金〕午後1時30分～2時, 3時～3時30分

「からくり人形の実演」日本科学技術史博物館準備委員会委員長 東野進氏

【美術映画会】

4月29日〔月〕午後2時

京都の魅力 美のすべて「京料理／京菓子」「京細工」

5月6日〔月〕午後2時

京都の魅力 美のすべて「葵祭」「京舞 井上千代」

【美術相談】

4月21日〔日〕午後2時～4時

講師 一 小野芳浩氏(版画家)／遠藤原三氏(洋画家)

5月19日〔日〕午後2時～4時

講師 一 宮田翁輔氏(洋画家)／広畑正剛氏(洋画家)

